

ふじえだ演劇祭参加作品

【陽射し】 作・藤田ヒロシ

●キャスト

磯部学……………

三笠真由美……………

幾度かの転職の後、この19年間は無職・引き籠り。

磯部の妹・恵の親友。磯部とは互いに意識するも恋人関係にはならなかった。

○総合病院、救急外来待合室 夜間

足音が響く。

椅子に座っている磯部。スマホでゲームをしている。耳にイヤフォン。カバンを肩から掛け、それを見つめている三笠。

三笠 「関係ない」と言われました。お父さんの事。「家族ではないから教えられない」と。結局、血縁なんですよね。

テレビのニュース番組の音が聞こえている。

声（三笠） 『明日の日中は曇り。ハッキリとしない天気となるでしょう。春の陽射しは期待出来ない一日になりそうですね』

磯部から離れた椅子に座る三笠。

三笠 聞こえていますか？

磯部 （ゲームを続ける）

磯部に近寄ろうとする三笠。しかし、それを拒絶する態度を取る磯部。

三笠 （言葉を選び）今は……検査ですか？

磯部 （ゲームを続ける）

三笠 （言葉を選び）お父さん、大事ないといいですね。

磯部 （ゲームを続ける）

三笠 （言葉を選び）不安、ですよね。

磯部 （ゲームを続ける）

三笠 今日は良くて、それでいいってわけにはいかないですからね。

磯部 ……帰れよ。

三笠 恵に頼まれたんです。帰りません。（手にした封筒を磯部との間の椅子に置き）足りるはずですよ。

磯部 （小声で）余計な事を。

三笠 「余計な事」？そう言いました？違いますよね？大事な事ですよ？

磯部 ……。

三笠 どうして恵が気にかけていると思います？「大好きなお兄ちゃん」だから。まさかそんなノ―天気な事思っていないですよ？それとも「当たり前」の事で考えすら―

磯部 (独り言のように) 嗚呼、そう言う事か。

三笠 はい？

磯部 子供の頃からいつも一緒に居たが、それは友達なんかではなく、女王様と召使。恵の言う事は絶対。「はい、恵様。」「はい、かしこまりました」弱みでも握られている？

三笠 (睨む)

磯部 凶星か。

磯部に近づき、片方のイヤフォンを奪う三笠。

奪い返そうとする磯部。それを避ける三笠。バランスを崩し、転ぶ磯部。

磯部 (小声で何かつぶやく)

三笠 ……情けない、ですね。

磯部 返せ！

三笠 無視して、怒鳴って、次は？殴るんですか？蹴るんですか？構いませんよ。お父さんやお母さん、恵と違って私、関係ないですから、あなたのなんて痛くもなんともないですから、ほら。

磯部 ……。

三笠 あれ？ダンマリですか？「関係ない」から殴るも出来ないですか？蹴る事もメンドクサイですか？

磯部 黙れ！

三笠 (押さえていた感情が露わになり) 言いますよ！言います。私が黙る？あり得ないです。だって私、関係ないですから、好き勝手言わせてもらいますよ。19年よ、19年。ここで黙ったら、なんだったんだって話じゃないですか。

磯部 (イヤフォンを奪い返そうとする)

三笠 (避けて)「弱みでも握られてるのか」って言っていたんですけど、その通りですよ。それに、私だって握ってます。恵とはずっと一緒に居て、ずっと……だからわかるんです。「大好きなお兄ちゃん」な

んであり得ないです。あなた何して来ました？

磯部  
(イヤフォンを奪い返そうとする)

三笠  
(避けて)「何もしてない」なんて事ないのよ。19年よ、19年。親が死んで、貯金が底着いて、そうなれば自分が面倒を見るの？そんな事出来るの？私には私の生活がある。出来たとしてもしたくない。でも見殺しも出来ない。でも私には私の……したくても出来ない。それは許されない……このままはありえないのに、時間だけが過ぎて……何も出来ない……恵はね、怖いの！わかってる？もう若くはないのよ！

磯部  
(無言のまま椅子に戻る)

三笠  
(感情が頂点に達し)何とか言いなさいよ！

三笠  
イヤフォンが片方のままゲームを始める磯部。三笠の持った片方から音が漏れる。

磯部  
(ゲームをして)……くそ……くそ……くそ……くそが！

三笠  
(怒りを越えて)……学さん。

磯部  
俺か。

三笠  
は？

磯部  
……「握られてる、握ってる」って俺か？

三笠  
……。

磯部  
(スマホを手放し)「関係ない」で済むじゃねえか。

三笠  
済むはずないじゃない。

磯部  
済むんだよ。

三笠  
(同時に)19年よ、19年。昔の事じゃないわ。今の事よ、これからの事よ。

磯部  
(同時に)19年だぞ、19年。昔の事だろ。済まなくても済ませろよ。放っておけよ。

三笠  
出来るならね。

磯部  
そうしろよ。

三笠  
出来るわけじゃない。

磯部

出来なくてもするんだよ。

三笠

「大好きな、お兄ちゃん」よ。大好きな―

磯部

昔の事だろ。そんなもの捨ててくれよ。

三笠

…：…それ、本音？

椅子の封筒を手にする磯部。受け取らない三笠。

磯部

(封筒を押し付け)「弱み」になるのは隠そうとするからだ。捨てちやえよ。

三笠

(何かを言おうとするが言葉にならない)

何かをふっ切る様に、封筒を受け取り、去る。

力なく椅子に座る磯部。スマホを手にし、ゲームを…：…そこでイヤフォングが片方ない事に気が付くが、構う事なくゲームをする。

ゲームの音が近づき、三笠が戻って来る。

三笠

持ちたくても持てない物ってある。

磯部

(手を差し出す)

三笠

これはあなたの物。

磯部

返せ。

三笠

「関係ない」(イヤフォンをつけ)こうやって耳塞ぐ。聞こえているサイン。だからその度に「次は」って思い、「今度こそ」って期待させ、「もしかしたら」って諦めさせない。それでも口を開けば「関係ない」…：…

磯部

(ボリュウムを上げる)

三笠

(イヤフォンを外し)本当にタチが悪い。

磯部

返せよ。

三笠

足搔いて、もがいて、汗かいて、少しくらい進んでいるかと思っても、いつだっていつか見た風景に、いつもと同じ事を口にする人たち。「関係ない」「アンタの努力が足りないだけ」―なら教えてよ。目に映る物を片っ端から食べ漁れる？それで「嗚呼、ダイエットしなきゃ」って笑って話せるようになる？スマートに何でも指先一つで片づけられる？それで「嗚呼、運動不足だ。ジムに行かなきゃ」

って笑って話せるようになる？つま先立ちで空を見上げて、倒れないでいられるようになる？

イヤフォンから漏れる音。それを止め、

何言ってるかわからん。

三笠 そうよ。私にもわからないんだから。それを決まって「わかる様について言われ、決まって「何があったの？」って、心配なのか、好奇心なのか、耳塞いでも、わからない事を答えろ！って迫ってくる。もう言うしかないんだよ。「関係ない」って。

イヤフォンを再び付け、

三笠 でも……嘘、だよ。聞かれ続ければ「じわっ」と気付かされる。

「関係ない」「わからない」……嘘ばっか。

磯部 真由美……お前――

と、立ち上がる。

三笠 気安く名前呼ばないで、下さい。

と、イヤフォンを外し、

三笠 捨てたくても捨てられない物もある。戻れないし、やり直しも出来ない……わかってますよ。だから私は……けど、恵は生まれた時から「関係ない」時間が一秒もないんです。

と、イヤフォンを磯部の近くの椅子に置く。

磯部 (イヤフォンを手にし、付けようとするが、できない)

三笠 支えなんです。お互いに。

と、封筒を指し出す。

磯部 (封筒を見つめ) 俺には出来ない。

三笠 やって来たはずです。一秒も間を空けずに。

封筒を手に取る磯部。

三笠 今は、検査ですか？

磯部 嗚呼。

と、封筒を強く握り、椅子に座る。

三笠 お父さん、大事なといいですね。

磯部 嗚呼。

三笠 不安、ですよね。

磯部 嗚呼。

付けたままの片方のイヤフォンを外す磯部。磯部との間を一つ空け椅子に座る。

磯部 くもりだつてよ。

三笠 は？

磯部 明日の天気、気にしたのなんていつ振りだろう。

二人、遠く見つめ父の戻りを待つ。

F I N

無断での転載・転用・使用を禁止